

自転車利用実態定点調査報告(A地点)

平成29年10月

(一財)日本自転車普及協会

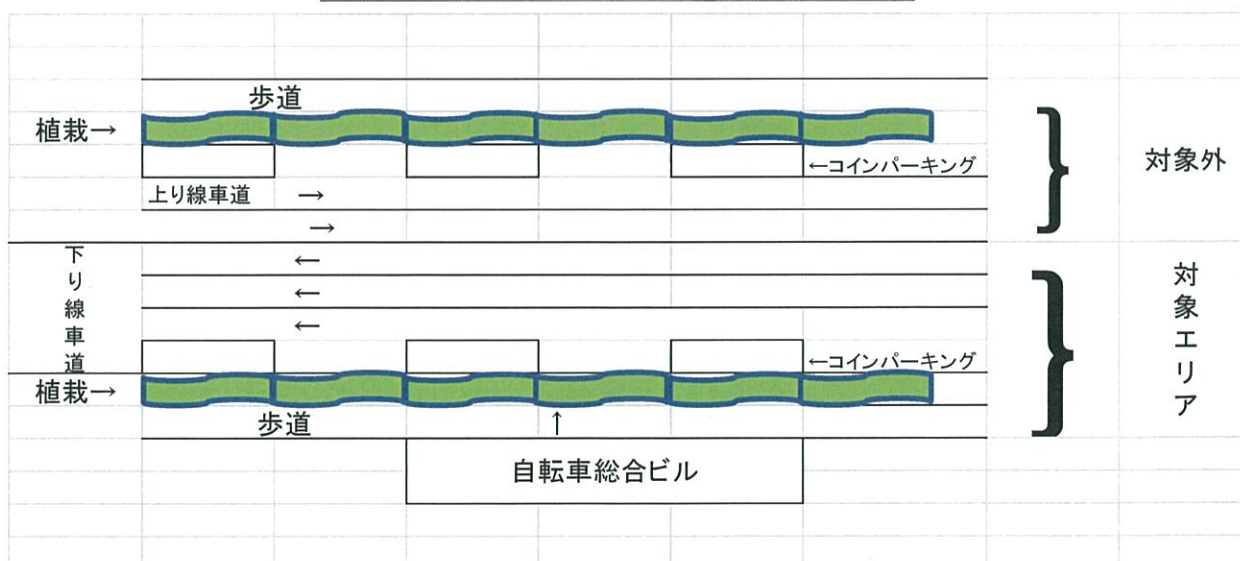
調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成29年9月1日～29日
[午前]9:00～10:00、[午後]14:00～15:00

調査場所 自転車総合ビル前（目黒駅方面に50m程緩い下り坂）

概要

- 調査対象(車道線:目黒通り下り3車線[内側1車線駐車帯])
(歩道:幅員5m・植栽1.5m～2mのため、実質通行幅3m～3.5m)
- 調査対象外(車道線:目黒通り上り2車線[内側1車線駐車帯]及び上り歩道)



調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				車種	雨天		危険運転行為								
	歩道左側	歩道右側	歩道中央	歩道		子乗せ	電動	雨	雪	携帯無線	スピード出しすぎ	片手運転	立ち漕ぎ	ハンドルに荷物	過積載	その他
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																

調査日時：	平成 年 月 日 ()
天気：	気温：
調査時間：	～

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、10～41%と多岐にわたるが、平均すると23%程度である。

依然、歩道を通行する自転車が多く、今回も、全体の7割強を占めている。同一地点(個別データ)においても、午前と午後で異なったデータとなっている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(216件)・ハンドルに荷物(128件)・片手運転(106件/内8件は、携帯電話を使用しながらの運転)・車道右側走行(59件)・過積載(35件)・子乗せ後部席に荷物掛け(*1)(28件)・ジグザグ運転(27件)立ち漕ぎ(26件)・歩道上でのスピードの出しすぎ(25件)・脇見運転(22件)等の順となっている。

*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

【総合】

今回は、平成 29 年度第 6 回目の調査となり、平成 29 年 4～9 月分の 6 カ月期間の様々な点で比較してみた。

- ・利用者別 今回も、午前が午後の利用者を上回った。

- ・車道左側走行率 今回(23.3%)は、6 カ月間中では上位で、9 月(23.3%)・6 月(21.8%)・8 月(21.3%)・7 月(19.7%)・4 月(19.6%)・5 月(19.4%)の順である。
 なお、午前 (23.6%)は、6 カ月間中では上位で、9 月(23.6%)・6 月(21.4%)・4 月(21.3%)・8 月(20.8%)・5 月(19.9%)・7 月(19.5%)の順である。
 また、午後 (23.0%)は、6 カ月間中では上位で、9 月(23.0%)・8 月(21.9%)・6 月(21.8%)・7 月(20.0%)・5 月(18.8%)・4 月(17.9%)の順である。

- ・子乗せ自転車 今回(25.8%)は、6 カ月間中では上位で、4 月(26.2%)・9 月(25.8%)・5 月(25.7%)・8 月(23.9%)・7 月(23.4%)・6 月(21.8%)の順である。
 なお、同自転車における同乗者あり(36.8%)の場合でのヘルメット着用率は、76.2%(週平均は、50～89%の範囲で推移)である。
 今回(76.2%)は、6 カ月間中では上位で、6 月(78.0%)・9 月(76.2%)・5 月(74.4%)・7 月(71.9%)・4 月(70.5%)・8 月(69.1%)の順である。

- ・電動自転車 今回(38.7%)は、6 カ月間中では中位で、4 月(41.5%)・5 月(39.8%)・9 月(38.7%)・8 月(38.5%)・7 月(35.9%)・6 月(34.9%)の順である。

- ・危険運転行為 上位 3 件別では、[肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転] の順であり、期間中の共通項目は、全項目である。

(違反行為を含む) 一方、下位 3 件別では、[立ち漕ぎ・歩道上でのスピードの出しすぎ・脇見運転] の順であり、期間中の共通項目は、該当無しである。

なお、今回も、肩に荷物・ハンドルに荷物だけで、全体(680 件)の 5 割(344 件)を占める形となった。

(危険防止の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)

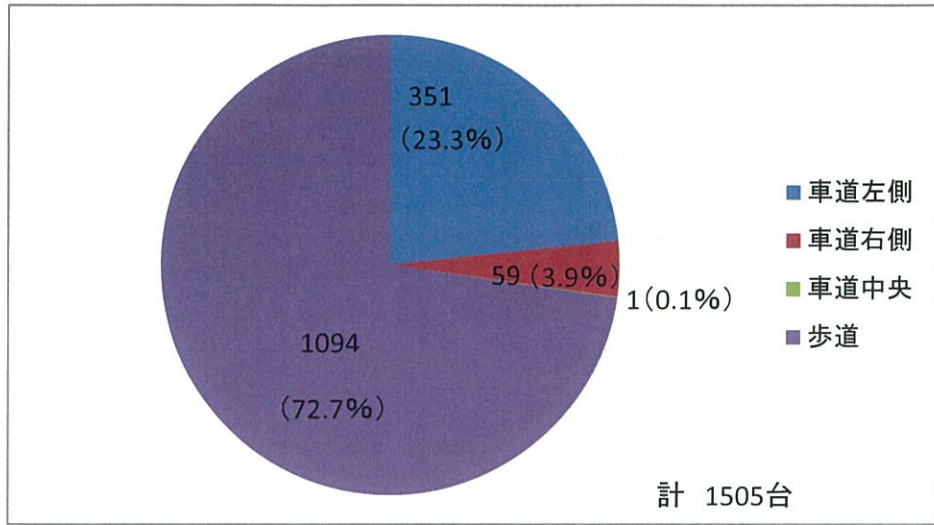
また、利用者全体(1505名)における危険運転行為(違反行為を含み 680件)の比率は、割合上(*2)では、47%となっている。

*2 実際は、1名で複数の危険運転行為等を実施している件(52件)も含まれるため

なお、現在、調査地点の近くに臨時のバス停(1年の期限付き)が設置されているため、車道右側走行者は、バス接近時において危険な状況(同様にバス側からも対向車となり危険)となるため、速やかに止めるべき行為である。

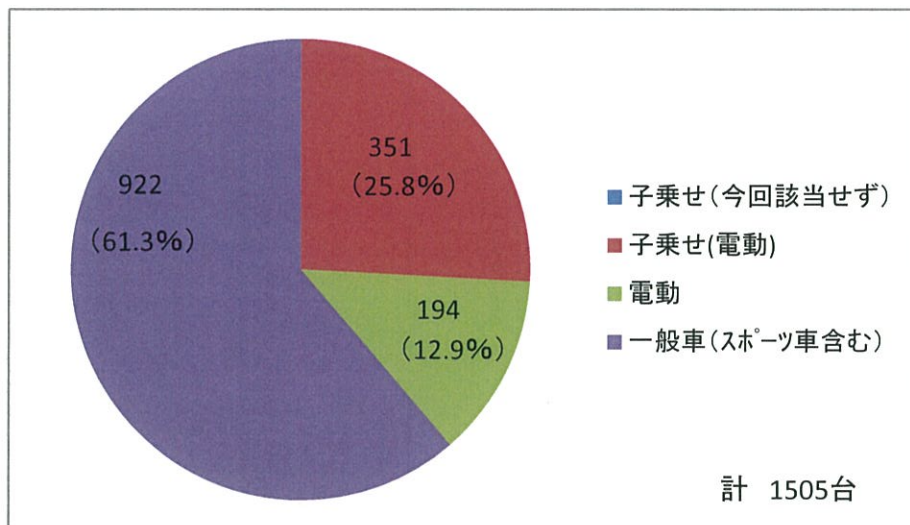
今回の雨天時のデータは、傘さし運転者(計10人)に対し、合羽着用者(計17人)で約2倍であった。

調査期間は、2日間であった。



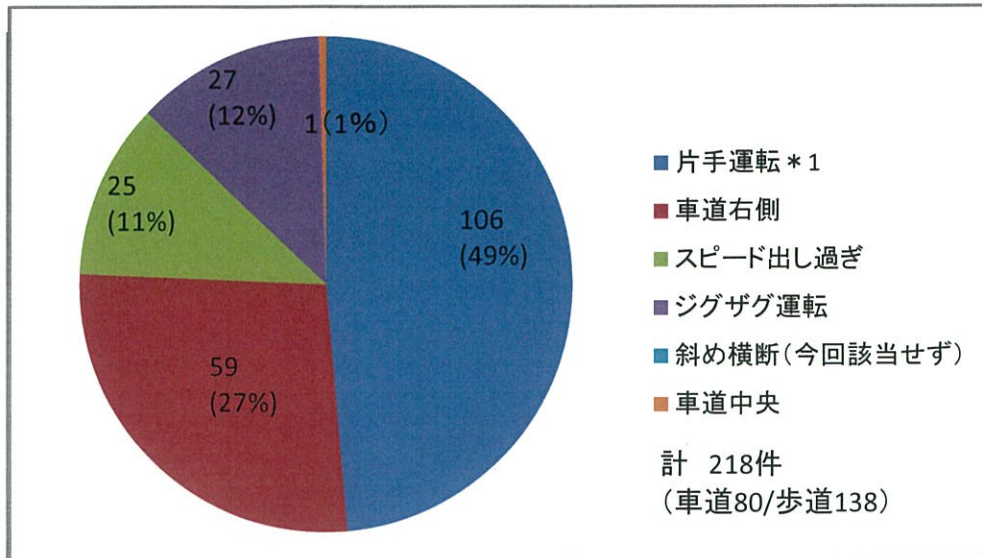
走行空間

調査期間 9/1~29



車種

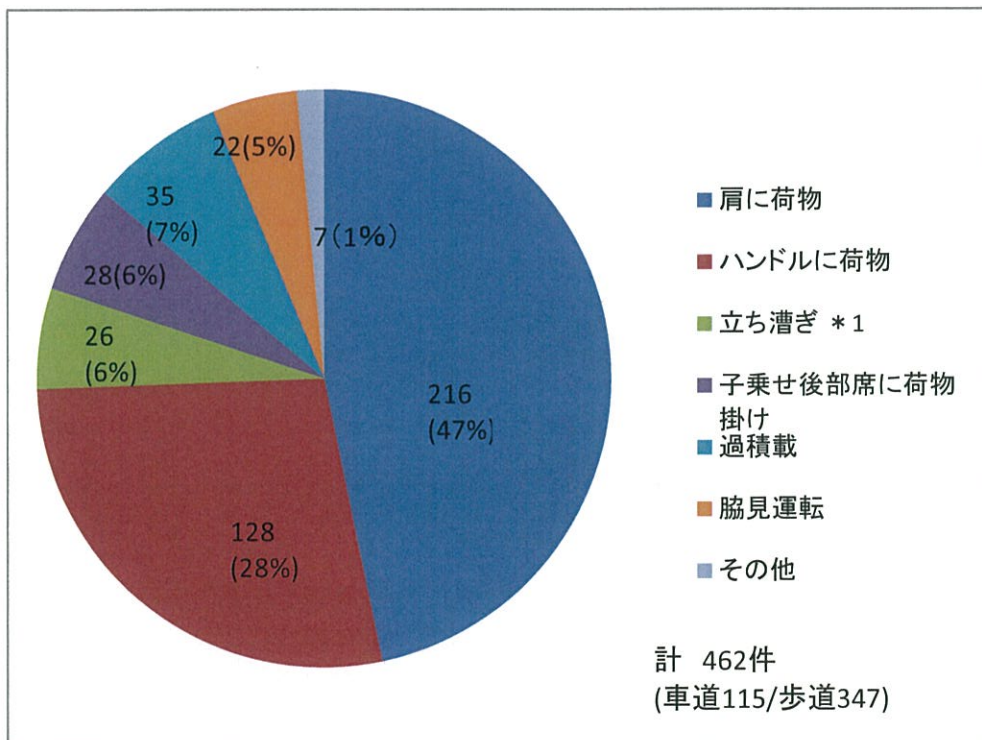
調査期間 9/1~29



違反運転行為

調査期間 9/1~29

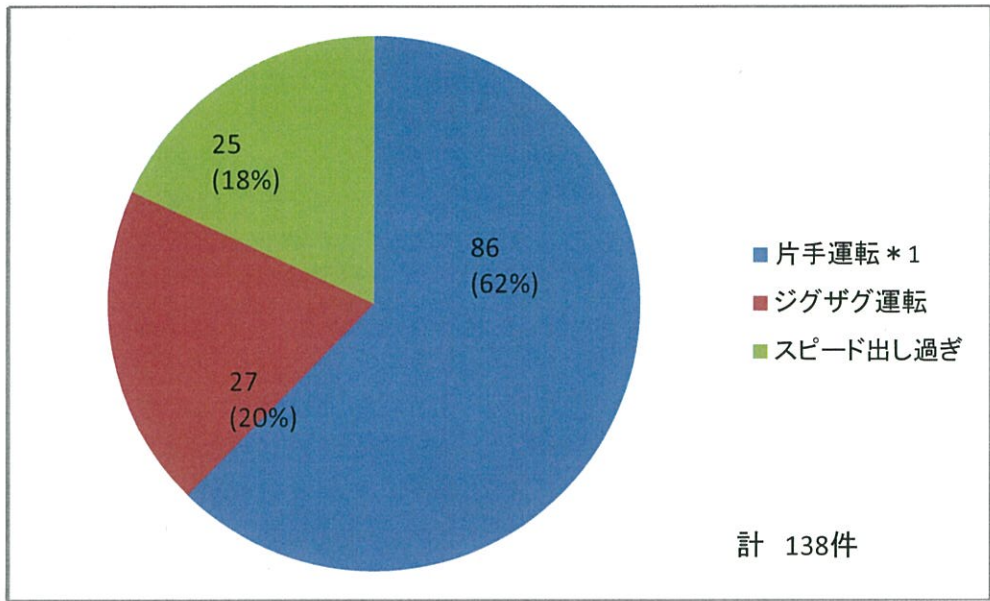
* 1 内8件 携帯電話を使用中の運転



危険運転行為

調査期間 9/1~29

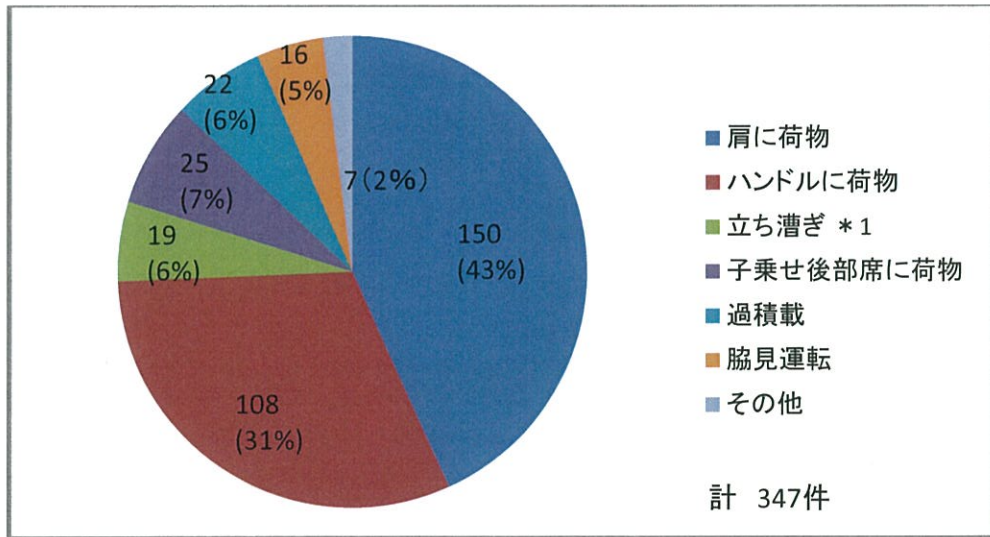
* 1 比率内訳: 上り坂13・下り坂13



違反運転行為
(歩道上)

調査期間 9/1～29

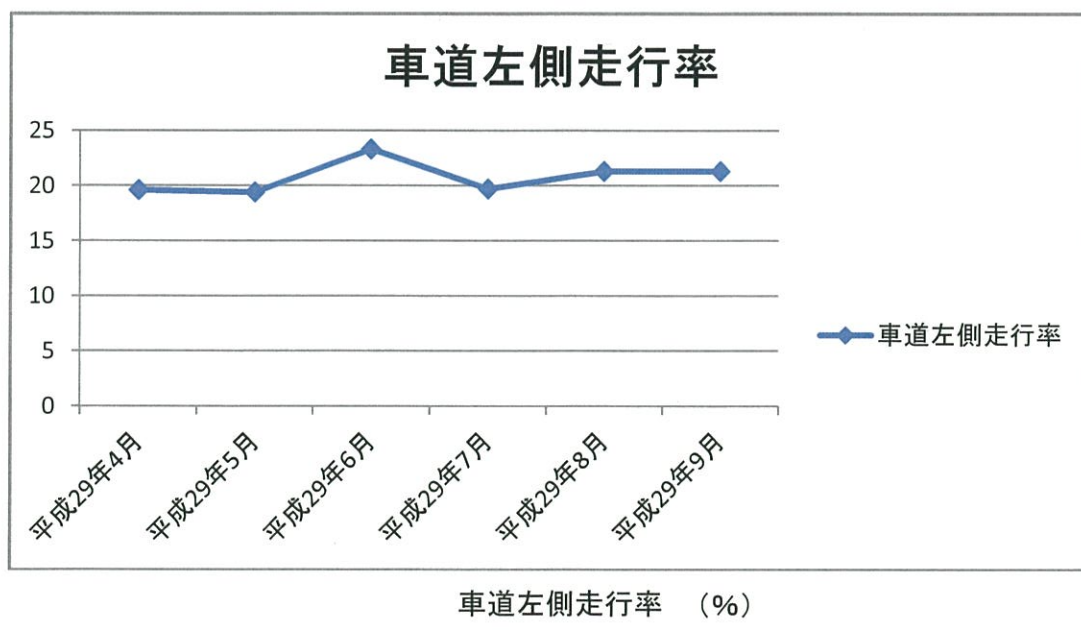
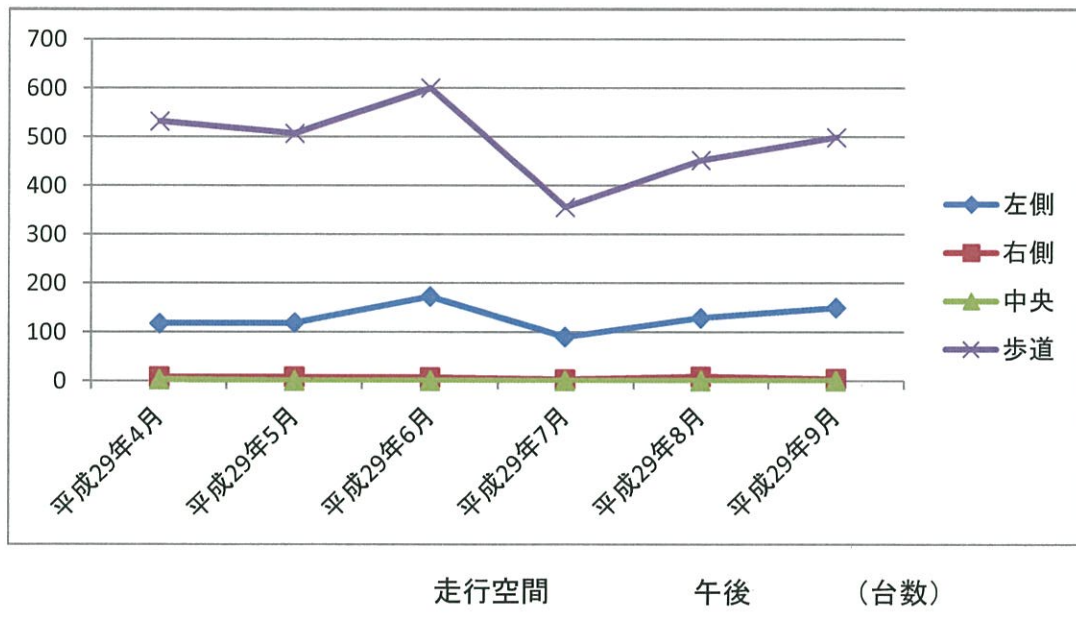
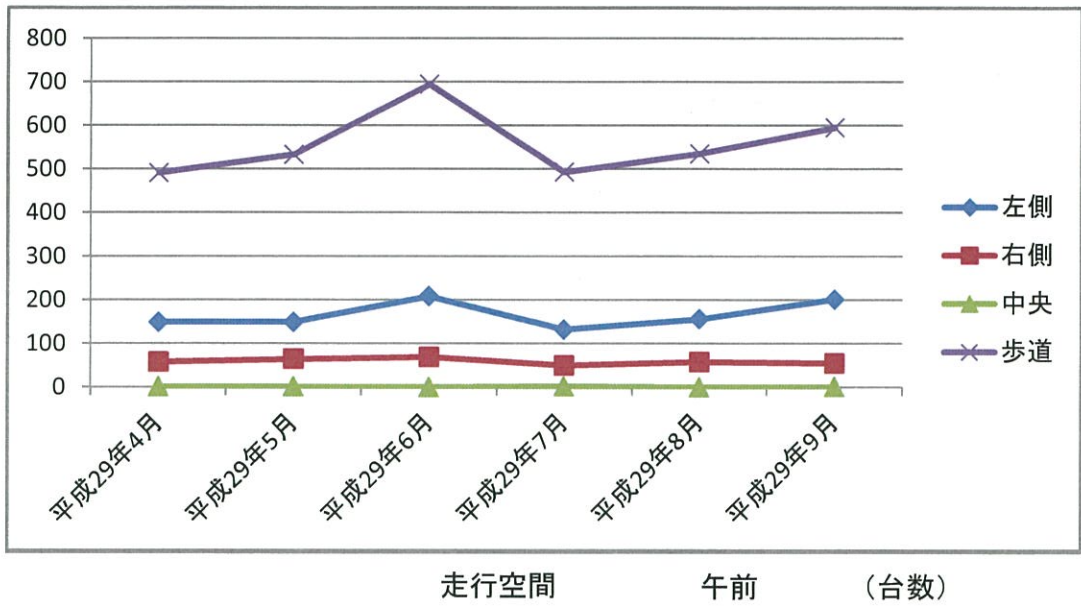
* 1 内5件 携帯電話を使用中の運転

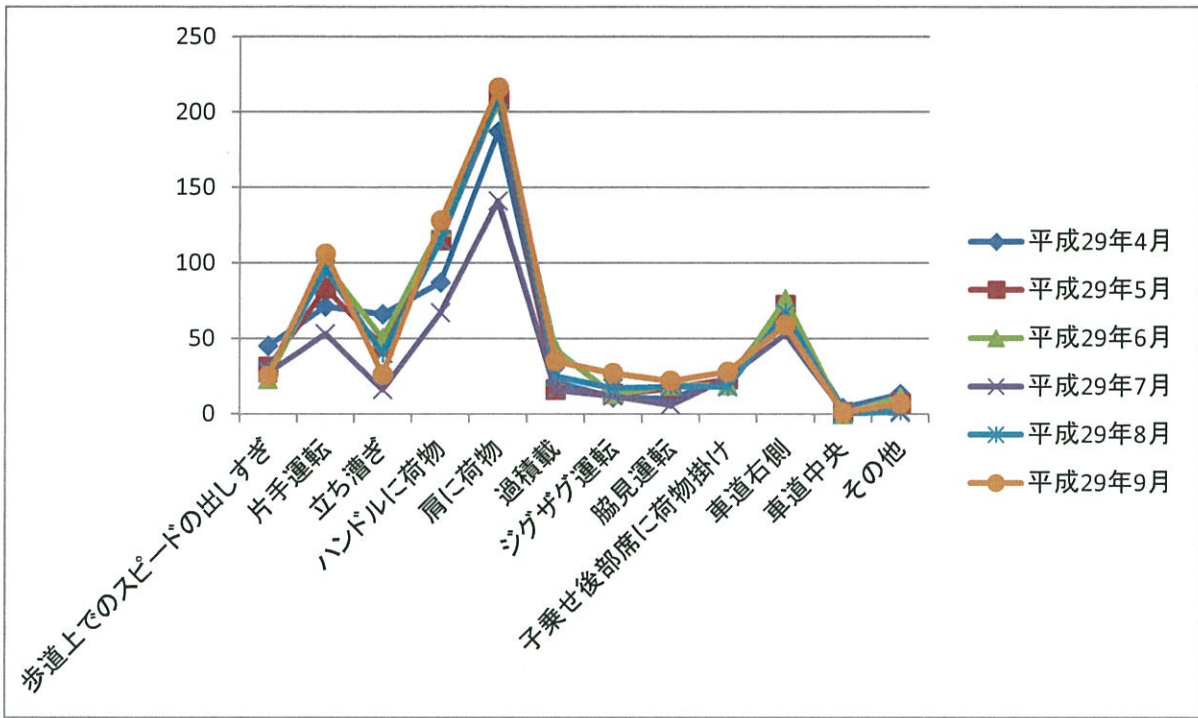


危険運転行為
(歩道上)

調査期間 9/1～29

* 1 比率内訳: 上り坂12・下り坂7





危険運転行為 (件)

自転車利用実態定点調査報告（B地点）

平成29年10月

（一財）日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成29年9月27日
[午前]9:00～10:00/ [午後]14:00～15:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点（首都高速目黒線直下）から70m程の上り坂）

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])
調査対象外(反対側上り歩道)



	歩道		←	対象外
上り線車道	←直進・右折レーン		}	対象エリア
	←直進レーン			
	←左折レーン			
	←左折レーン			
	歩道	↑		
	白金幼稚園			

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

No.	走行空間			種別	雨天	危険運転行為			
	車道左側	車道中央	歩道			違反	危険	危険	危険
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									

調査日時:	平成 年 月 日
調査区間:	区
調査時間:	時 分

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、約 12%であり、また、車道中央走行率は、22%であり、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の 6 割強を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む) は、車道中央走行(27 件)・肩に荷物(21 件)・ハンドルに荷物(7 件)・過積載(6 件)・立ち漕ぎ/片手運転(各 4 件)・子乗せ後部席に荷物掛け(1 件)の順となっている。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の 9/26)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

今回(11.5%)は、前回(20.0%)の約 6 割の水準 である。
 なお、午前 (12.5%)は、前回(22.4%)の約 6 割の水準である。
 また、午後 (8.8%)は、前回(10.5%)の 8 割の水準である。

なお、午前の上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・約 13%)は、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・24%)の 5 割の水準である。

また、午後の上り地点 (9%)は、下り地点 (22%)の 4 割の水準である。

・子乗せ自転車

今回(14%)は、前回(16%)の 9 割の水準

上り地点(14%)は、下り地点(22%)の 6 割の水準

なお、同自転車における同乗者あり(30%)の場合でのヘルメット着用率は、80%である。

今回(80%)は、前回(67%)の 1.2 倍の水準である。

さらに、ヘルメット着用率の上下線での比較として、上り地点(80%)は、下り地点(67%)の 1.2 倍の水準

・電動自転車

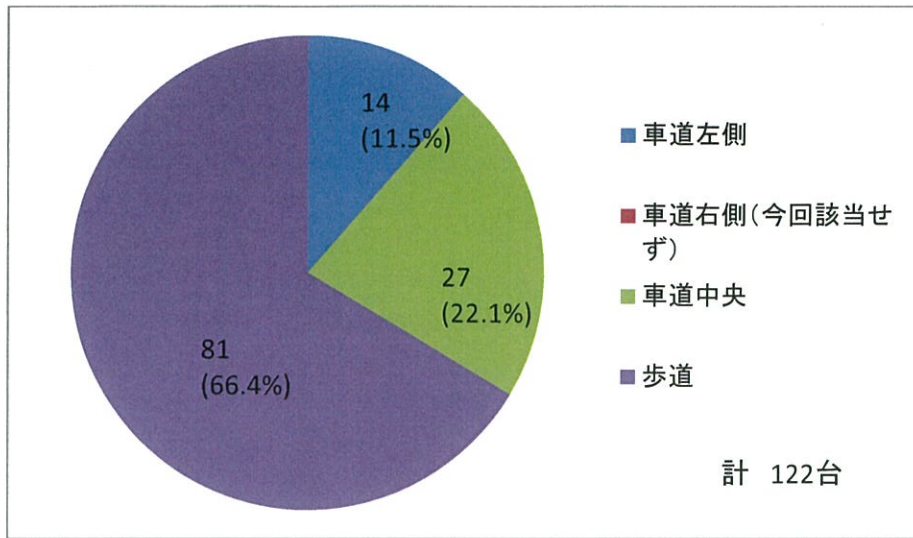
今回(31%)は、前回(35%)の 9 割の水準である。

上り地点(31%)は、下り地点(39%)の 8 割の水準

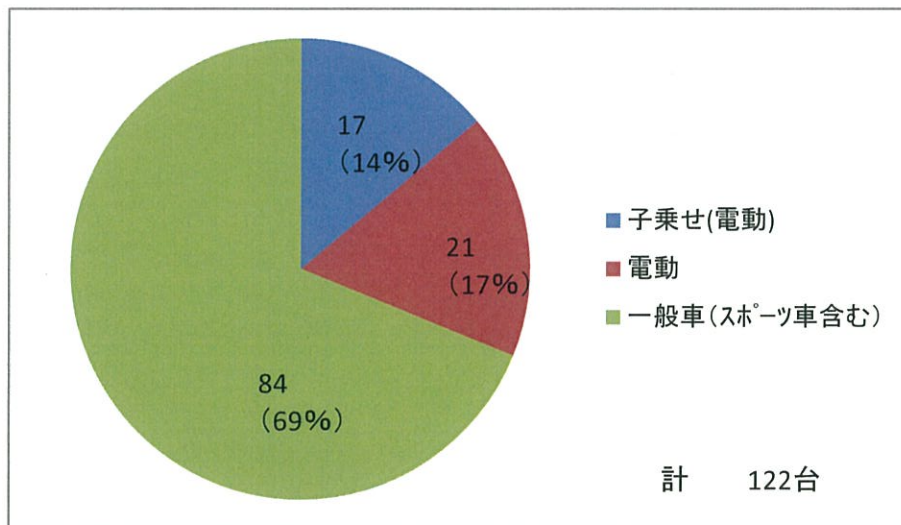
・危険運転行為 上り地点の [車道中央走行・肩に荷物・ハンドルに荷物] に対し、
(違反行為を含む) し、下り地点では [肩に荷物・片手運転・ハンドルに荷物] であり、共通項目は、肩に荷物・ハンドルに荷物の 2 件となっている。

なお、中央走行者については、依然として電動自転車を使用していない。

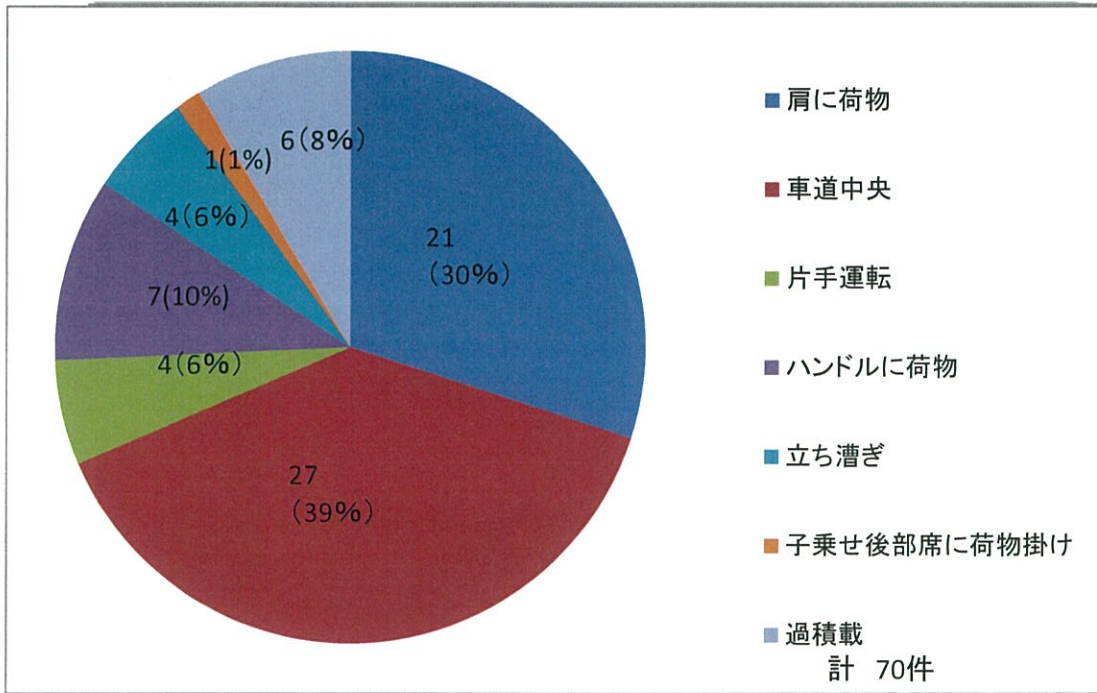
さらに、車道中央走行が多い理由として、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から 道路中央を走行していたが、4 車線での中間(両隣が 2 車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。



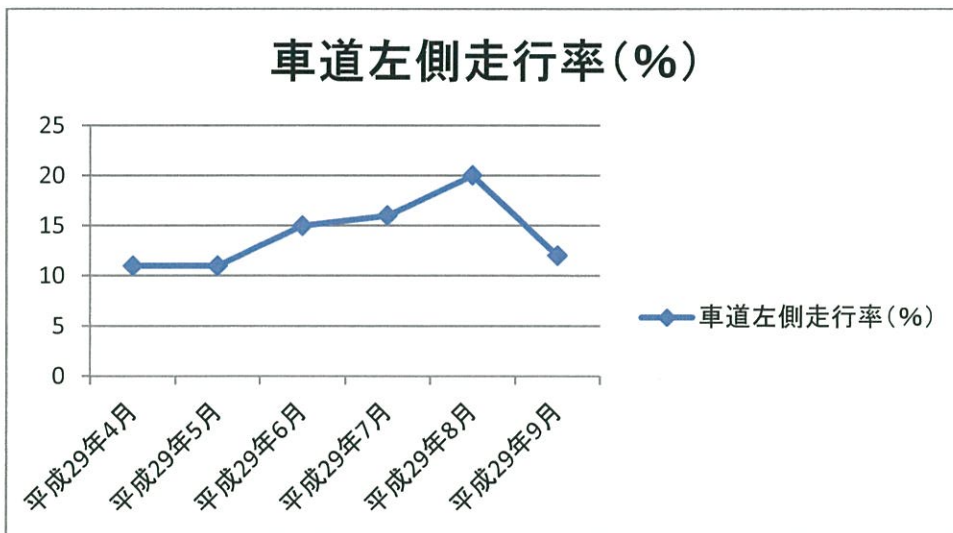
走行空間

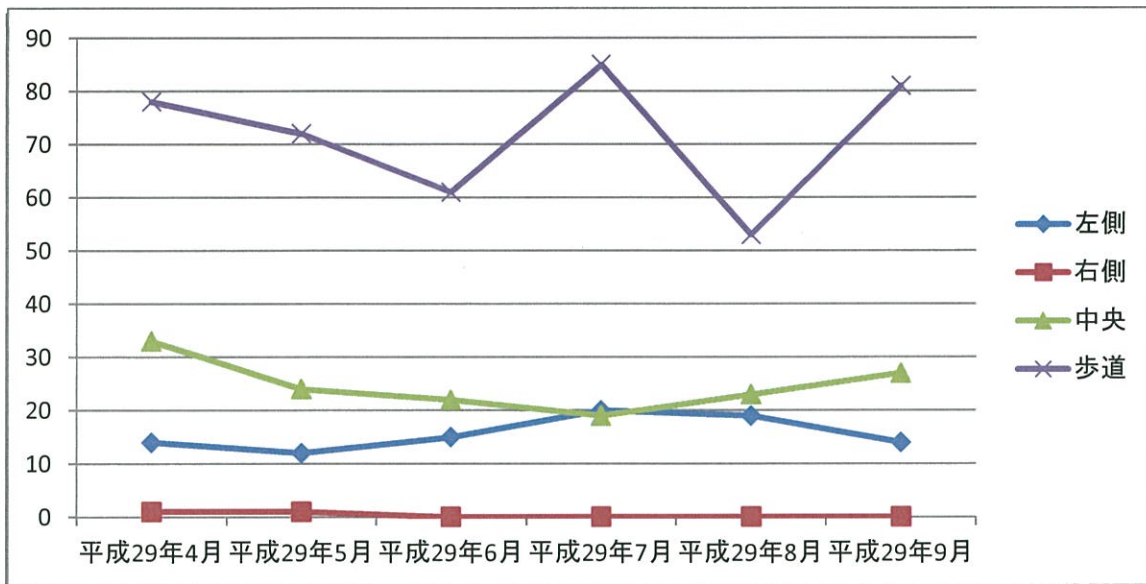


車種

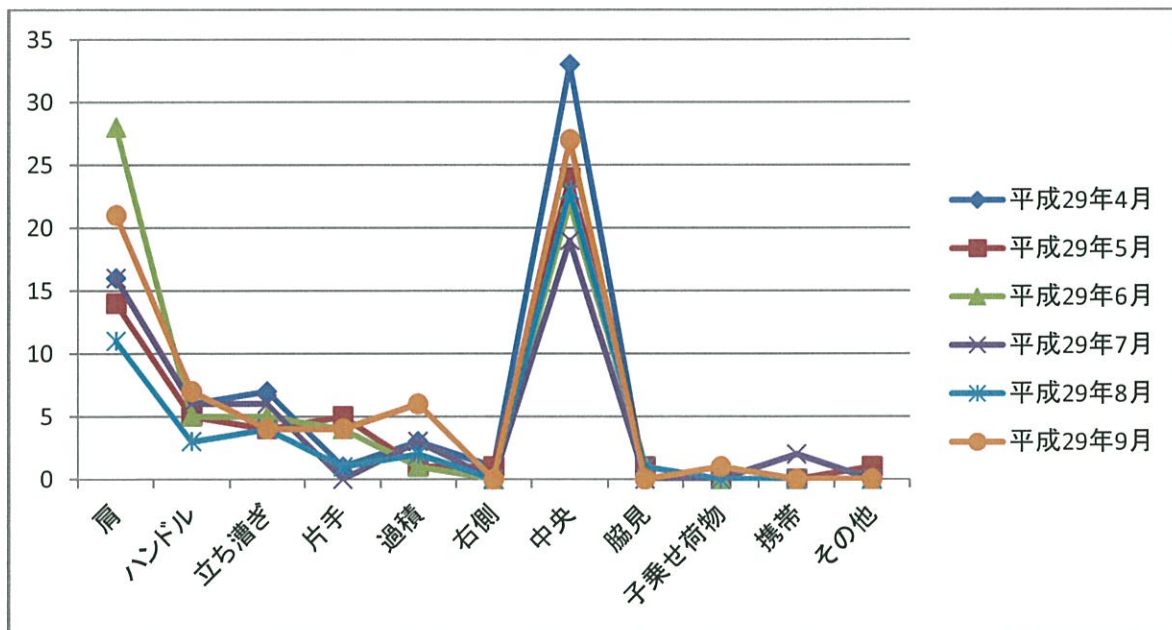


危険運転行為 (違反行為を含む)





走行空間 (台)



危険運転行為 (違反行為を含む) (件数)